

日本特殊教育学会第45回大会(神戸)2007.9.24

自主シンポジウム55

ICF(国際生活機能分類)の学校現場への適用

- 小中学校等での活用の可能性を探る -

# ICFの教育相談への活用

## — 小学校通常学級で生活するYさんの事例から —



長野県飯島町立飯島小学校

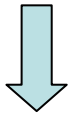
伊藤尚志

[zebra617@ybb.ne.jp](mailto:zebra617@ybb.ne.jp)

## 本研究の位置

小学校・通常学級で生活する特別な支援を要する子どもへのICFの活用  
ICFチェックリスト評価からICF関連図を作成する中で支援の方向を探る手法

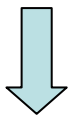
### ICFチェックリスト評価



生活全般を系統的に整理  
時間がかかる・内容がわかりにくい

成果( )を活用し、  
課題( )に  
アプローチする

### ICF関連図(全体図)の作成



全体像を理解できる 教育課題の設定  
時間がかかる・評価項目が多く、関係性や相互作用が見えにくい

### ICF関連図(部分図)の作成



全体図の中から一部をとりだして検討する 授業・生活づくり  
活動・参加・環境因子などの関係性が見え、話し合いが深まる

### 関係者による支援の共有

## 問題の所在(課題意識)

### ICFを本人・保護者の手に

今までの自己実践は、ICFの教育活動への活用の可能性を探ることとも相まって、主導的すぎたかもしれない。  
視点;より本人や保護者が活用するICF

### ICF活用の成果を問う

ICFは本人や保護者の困り感を明らかにすることができるか。  
チェックリスト評価・ICF関連図(全体図)づくりにより、どこにアプローチしていくことがよいのか、見通しが持てるか。  
ICFは本人や保護者の困り感に応えることができるか。  
ICF関連図(部分図)作成を通して、機能・活動・参加・環境などがどう関連しあって困り感が生じているのか明らかになるか  
ICFは使いやすいか  
2時間という教育相談の中で成果を出せるか

## 事例研究(小6・Yさん)

Yさん(小6・男子)

診断名;アスペルガー症候群

WISC - 言語性63動作性58 全検査  
121

給食・清掃時のみ特別支援学級に通級、  
学校生活のほとんどを原学級で過ごす。

## ICF活用の経緯

家庭より、特別支援教育コーディネーター  
に教育相談の依頼  
その席に伊藤が同席しICFに基づく支援  
を提案することへの保護者の同意が得ら  
れた

家庭の困り感を  
共有したい。  
ICF活用の主体  
= 保護者(本人)

## ICFを活用した教育相談

2時間  
母親・コーディネーター・伊藤

## 支援の方向の共有・評価

作成したICF関連図を、父親・学級担任と  
共有、2ヶ月後を目処に評価

## 教育相談の実際

2時間の相談とわかっていたので  
ICFの活用も2時間用にアレンジ  
どのようにも対応できる

### ICFの説明・ゴールの確認 (10分)

ICF-CY JAPANNETWORK作成のリーフレット(別紙参照)により  
\* ICFはWHOが提唱しているチェックリスト評価であること  
\* チェックした内容をICF相関図に記入し、相互作用を検討すること

ICF関連図を2枚作成する(全体図・部分図)

- \* 全体図;生活の中の困り感を全て挙げ、それらの相関を把握する
- \* 部分図;困り感の中から1つだけを選んで解決・軽減に向けての話し合いを行う

### ICFチェックリスト評価 (30分)

### ICF関連図づくり(2枚) (80分)

具体的なチェックリスト評価を  
共にしながら、ICFへの理解の  
深まりを予想し、説明には時間  
をかけなかった

# ICFチェックリスト評価

保護者(本人)が活用するチェックリストへ  
\* はじめにチェックリストありきだと、項目が多く、チェックに時間がかかる  
\* 保護者の困り感に沿う

## 保護者の困り感から始める

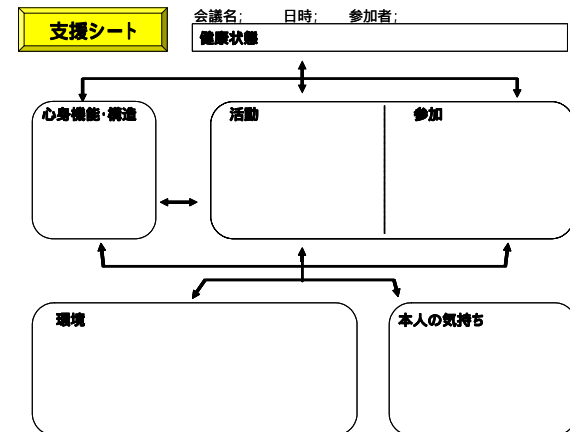
困り感があるので、はじめはどんどん付せんに記入して貼られていく  
その内に考え込むようになったので、赤本を提示しチェックリストに沿って困り感のある項目だけ記入してもらう

膨大なチェックリスト項目に気後れすることなく、「人の生活を系統的に落ちなくチェックしていく良さ」を感じながらの作業になった。

## ICFチェックリストに沿って

保護者にICFチェックリスト評価一覧表を渡し、系統的にチェックしてもらう  
伊藤は赤本を持ち、保護者が項目の内容がわからない場合に提示して、理解を深める

## 28の困り感が挙げられた

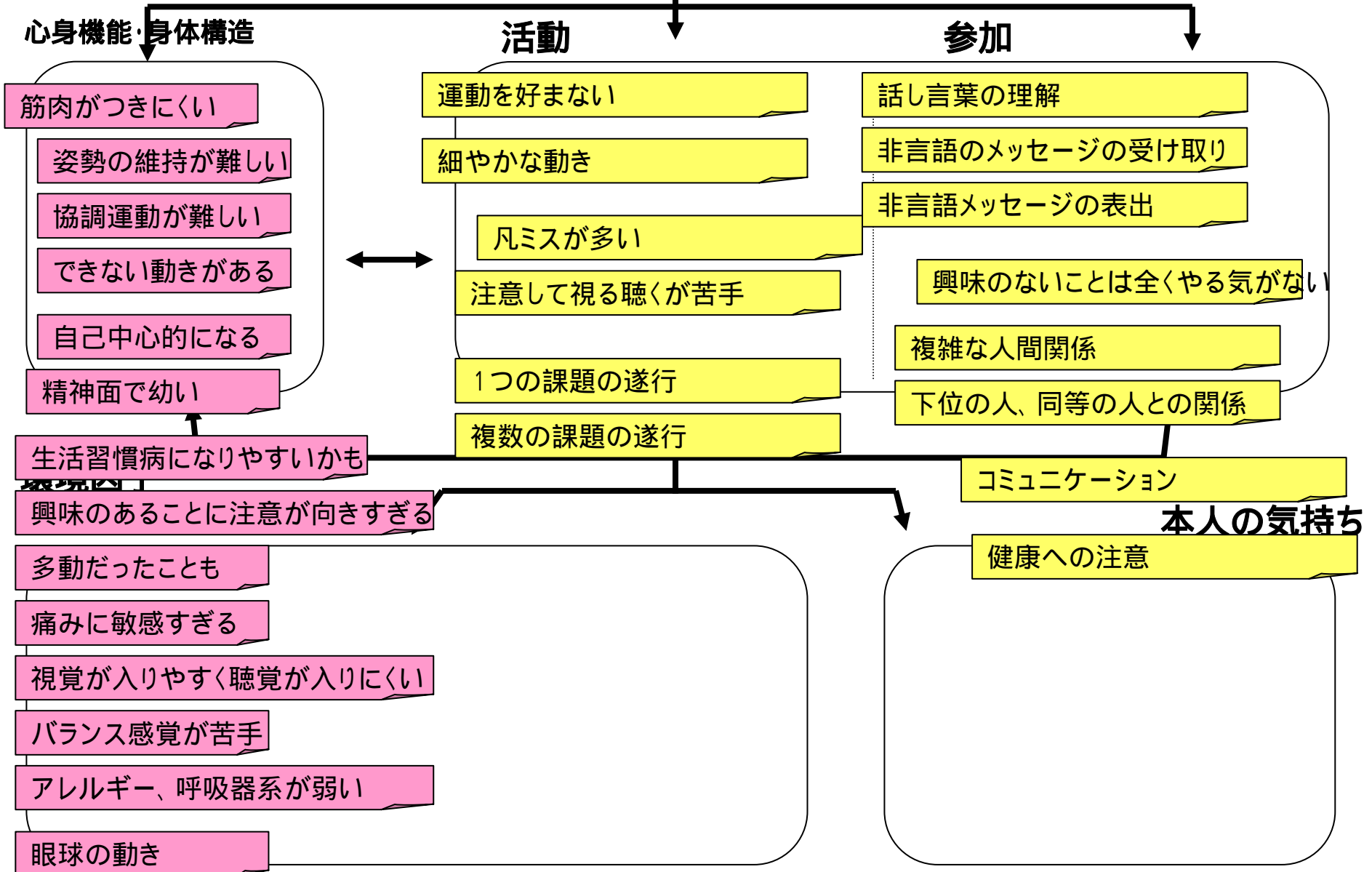


# 支援シート

会議名;教育相談 日時;07.8.8 参加者;母・堀内・伊藤

健康状態 アスペルガー症候群

チェックリスト評価



## ICF関連図づくり 1

## ICF関連図(全体図)作成

### 一番の困り感を選ぶ

28の困り感の中から1つ選ぶよう依頼した  
母は自発的にICF関連図に貼られた28の付せんの位置を貼り  
かえ、いくつかのグループを作成した  
母はじっくり考え、その中から「d210一つの課題の遂行」を選んだ

### 具体的な行動の姿を挙げる

d210一つの課題の遂行  
における、到達してほしい  
具体的な姿を挙げてもら  
った

一つ選ぶという具体的な作業  
を通して自然に付せんの並び  
替え・グループ化が行われ、  
それぞれのグループ同士  
の相関も見えてきた



## ICF関連図づくり 2

## ICF関連図(部分図)作成

### 具体的な行動の姿を挙げる

家庭と学校で取り組める  
活動を共に考えた。  
家庭;手伝い  
学校;清掃

手伝いや給食当番において、  
本人が達成すべき行動の型を  
明確に示し、本人の  
特性に配慮しながら見守る  
ことが確認できた

### 実現への手だての話し合い

具体的な姿を実現するための手だてをICF関連図上に記入していく  
ICF関連図に沿って

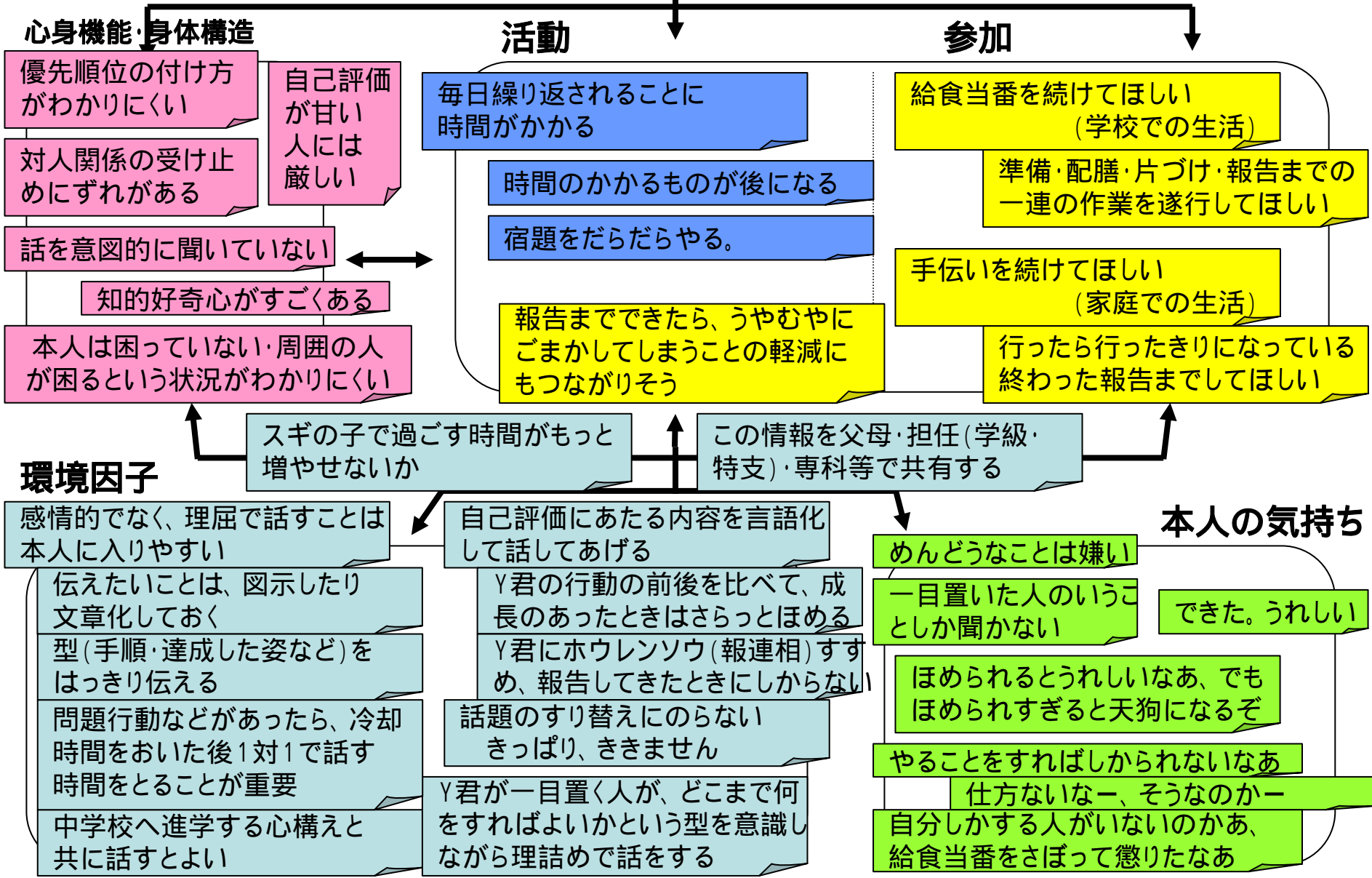
- \* 本人にはどのような力が必要なのか
- \* どう環境を整えることで本人が主体的に動けるようになるのか
- \* それについて本人はどう思っているのか

# 支援シート

会議名;教育相談 日時;07.8.8 参加者;母・堀内・伊藤

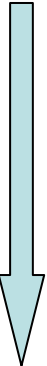
健康状態 アスペルガー症候群

当番・手伝いの継続



## 相談内容の共有と評価

### ICF関連図をコピーして



作成したICF関連図をコピーして、関係者(父母・担任・特支担任・専科等)に配布、Yさんの課題や課題達成に向けての支援の方向を共有した

### 形成的な評価

現在の評価 「一つの課題の遂行 d210.2.2」  
支援実施後の評価「一つの課題の遂行 d210.2.1」を目指す  
2ヶ月後、教育相談を行う。

## 成果と課題

### ICF活用の手法について

《ICFチェックリスト評価 ICF関連図づくり の有用性》

「本人・保護者の困り感に沿う」「本人・保護者が活用する」という視点に立つことで、これまでの課題であった「ICFチェックリスト評価の煩雑さ」「ICF関連図(全体図)作成の難しさ」が解消され、2時間という教育相談の中でも、この手法が活用できる。

### ICF活用の成果について

ICFは、全体的系統的に困り感を挙げだし、それぞれの相互作用について理解することには有効である。

実際の困り感の軽減には、これまで特別支援教育が培ってきた様々な手法の活用が必要となる。

本事例のように、生活上において二次障害が心配される時に、環境への配慮を重要な視点にもつICFの取り組みは有用である。